



浅ヶ部石仏の里

ロマンロード

浅ヶ部ハナハナ新霊場めぐり



- 開場 天保6年（1834年）
- 石工 利吉（延岡舞野）
- 行程 約13km（1→88）
- 旧暦の1月21日、3月21日、7月21日に各茶屋でお茶や赤飯等のお接待があり、3月20日に「おこもり」が行われる。

楽しめる巡回コース

- 88→74→12→71→23→4（約3.6km）
- 3→45→70→13→22→20
→38→21→16→2（約3.5km）
- 67→57→56→50→47→48（約2.6km）

車で廻わる里コース

所要時間：約1時間

- 徳玄寺→仁田野茶屋23番→樋野茶屋4番
→浅ヶ部公民館3番→地主森茶屋2番
→向茶屋1番→天道山公園47番、48番



日本の原風景の旅

【遊歩百選】

読売新聞社大阪本社の呼びかけで始まった「地域が誇る観光資源をもとに、自然と歴史の再発見を目指し、同時に歩きながら健康づくりが楽しめるエリア」として全国800余りの候補から高千穂町「野仏の里と神話（浅ヶ部～本組神話史跡～高千穂峡）」が遊歩百選に選ばれました。



高千穂町商工観光課

〒882-1192

宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井13
TEL(0982)73-1212 FAX(0982)73-1234

高千穂町観光協会

TEL(0982)73-1213 FAX(0982)73-1234



第一番 竺和山 靈山寺 一乘院 (じくわざん・りょうぜんじ・いちじょういん)

●本尊 釈迦如来

靈山寺は一番さんと親しまれています。弘法大師は人間の持つ八十八の煩惱をなくそうと四国に八十八の靈場を開く決心をし、四国の東北に位置する鳴門を起点にしたといいます。本尊を釈迦如来とした由縁は、天竺（インド）の靈山を和（日本）に移すという意味で、山号等を名づけ、釈迦誕生仏を本尊前に納めたといわれています。

浅ヶ部一番さんには大師堂が設けられ、横には天保6年3月21日に建立された八十八ヶ所供養塔があります。

第三番 亀光山 金泉寺 釈迦院 (きこうざん・こんせんじ・しゃかいん)

●本尊 釈迦如来

金泉寺は、勅願の道場として栄え、日本中から学僧が訪れ勉学に勤しみ、講演なども催されたお寺です。

浅ヶ部では、八十八ヶ所の第三番所在地内に自治公民館を設け、村落共同体の拠点としています。

第八番 普明山 熊谷寺 真光院 (ふみょうざん・くまたにじ・しんこういん)

●本尊 千手觀世音菩薩

熊谷寺には、四国八十八ヶ所靈場最大の仁王門が建造されています。本尊の千手觀世音菩薩は、弘法大師が熊谷山で修行した時、熊野權現に一寸八分の金の觀音像を受けられ、大師は等身大的千手觀音を彫りその胎内に納めたといわれます。千手觀音は数限りない人々の苦惱をすべて救いとる仏様です。

浅ヶ部地区には熊野三社大權現が氏神様として祀られ、毎年旧暦11月11日に、氏神まつりとして夜神樂33番が奉納されています。

第十二番 摩盧山 燒山寺 正寿院 (まろざん・しょうさんじ・しょうじゅいん)

●本尊 虚空蔵菩薩

四国燒山寺は標高800メートルの深い山中にあります。修驗道の祖とされる役小角（えんのおづね）が、大宝年間（701～704）に開いたと伝えられています。弘法大師が訪れた時、大蛇が火を吐いて進路を妨害し、山を火の海にしたため、大師は印を結んで火を消し、大蛇を岩穴に閉じ込め、虚空蔵菩薩像を刻したといわれます。虚空蔵菩薩は蓮華座に坐り、宝冠を頭上に載せ、右手に知恵を象徴する剣、左手に福德をあらわす蓮華と宝珠を持ち、家庭円満の仏様といわれます。

浅ヶ部燒山寺も標高796メートル。天保6年（1835）3月21日の開場にちなみ、毎年旧暦3月20日には夜を徹しての「おこもり」が行われます。真夜中のお経が始まると、心の祈りでしょうか、里の大師堂等に明かりが灯る、不思議な神秘的現象がみられるといわれます。



浅ヶ部八十八ヶ所スボット

第十七番 瑠璃山 井戸寺 真福院 (るりざん・いどじ・しんぷくいん)

●本尊 七仏薬師如来

別名「井戸のお薬師さん」ともいわれます。弘法大師が錫杖で一夜のうちに井戸を掘られたという伝説が、寺号の由来といわれます。井戸は今も本堂脇の建物の中にあり、井戸を覗いて顔が映れば、3年寿命が延びるといわれ、面影の井戸と呼ばれています。薬師様の光背には七つの化仏（けぶつ）（小さな仏）が配され、左右には日光・月光の両菩薩と十二神将を従えます。

浅ヶ部集落内には、古くから五つの井戸があり、今もその跡をとどめています。天岩戸に通じる峠道、その入口に「先の川水神様」が祀られています。お参りの途中、面影を映してご神水を飲まれるのも、土地の生活信仰にふれあういい機会です。

第二十三番 医王山 薬王寺 無量寿院 (いおうざん・やくおうじ・むりょうじゅいん)

●本尊 厄除薬師如来

阿波路最後の札所で、弘法大師の創建以来、嵯峨、淳和、後鳥羽天皇をはじめ歴代の天皇が厄除祈願の勅使を下向させたといわれています。浅ヶ部靈場では集落境に位置し、ここから72番、74番の分路まで23カ所の札所が続いています。23番札所の周辺には、明治26年に建立された「大乗妙典經一字一石供養塔」や石燈籠（天保7年奉納）、天保9年建立の猿田彦大神庚申塔があり、仁田野茶屋さん（大師堂）からは天孫降臨の神山「二上山」を眺望できます。

第三十番 百々山 善楽寺 東明院 (どどざん・ぜんらくじ・とうみょういん)

●本尊 阿弥陀如来

もともとは土佐国の一宮、土佐神宮の別当寺院として栄え、長福寺とも呼ばれたといわれます。浅ヶ部梅木に同じく阿弥陀佛を本尊とする禪寺長福寺の跡があります。祀堂には今も阿弥陀三尊が祀られ、寺内に残る六地蔵、五輪塔二十数基が里人により手厚く保存されています。

第三十四番 本尾山 種間寺 朱雀院 (もとおざん・たねまじ・しゅじやくいん)

●本尊 薬師如来

弘法大師が唐から持ち帰った五穀の種を境内にまいたのが寺号の由来といわれます。浅ヶ部では、毎年旧暦11月11日に氏神様磐下權現社のお祭りとして神樂33番が奉納され、真夜中頃に「17番 五穀」が舞われます。「天よりも五穀をたばねて我來たよ、五穀の主とは吾をこそいう」と歌われる五穀の舞は、豊作祈願として膳に入れた五穀を大地にまきます。高地農業で米の生産が少なかった頃、黍・稗・粟などの雑穀が主食で、特に収穫されたトキビを乾燥して、石臼で小さく碎く臼挽きは主婦の夜なべ仕事でした。